

# 鹿児島県公立高校入試徹底分析【国語】

## 【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	90点	
問題構成	大問5題構成。漢字（行書の知識を含む）・論説文・古文・小説文・作文。 [1]は漢字（行書の知識）14点。漢字6問と行書の漢字の特徴の問題1問。大問の正答率は65.1% [2]は論説文26点。出典（『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』広田照幸）。記述式は65字以内のものが1問。大問の正答率は61.9% [3]は古文18点。出典（『十訓抄』）。記述式は10字以内のものが1問。大問の正答率は64.0% [4]は小説文23点。出典（『スクラッチ』歌代朔）。記述式は65字以内が1問と15字以内が1問、10字以内が1問。大問の正答率は44.7% [5]は作文9点。8行160字。来年度、高校生になる中学三年生に向けて総文祭を紹介するための記事の下書きと見出しを作成する内容。大問の正答率は44.9%			

	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)	令和3年度(2021)	令和2年度(2020)	平成31年度(2019)
問題量（A4で）	10ページ分	7ページ分	7ページ分	7ページ分	7ページ分
小問数	25問	26問	26問	26問	26問
論述問題の数	6問	6問	7問	6問	7問
論述問題配点	35点	33点	39点	35点	38点
受験者平均点	51.1点	57.8点	50.4点	55.1点	44.7点

## 【出題の傾向と対策】

- ① [1]の漢字の知識に関して、行書における総画数や筆順、行書の特徴などを問う問題が出題されるため、行書においての点画の連続、省略といった書き方の確認が必要。

### R5[1]

2 次の行書で書かれた漢字の特徴を説明したものととして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 全ての点画の筆の運びが直線的である。
- イ 点画が一部連続し、筆順が変化している。
- ウ 点画の省略がなく、線の太さが均一である。

- ② [2]の論説文に関して、今年度は本文を整理したノートを埋める問題が出題。文章全体の内容把握とともに、段落を意識した解き方が必要。説明文の最後の記号問題でも文章全体の内容把握が必要。また、毎年長文の記述が出題される。問題文中にある表現を抜き出しつなげるだけでなく、文章を読み取って理解した内容を自分の言葉で分かりやすく表現する力が問われる。

### R5[2]

4 次は、四人の中学生が発言したものである。一線部②「知識の活用の本質」について、筆者の考えに最も近いものを選び、記号で答えよ。

- ア 英語について興味があるので、英字新聞の記事を読むことに挑戦しよう(略)
- イ 県外へ修学旅行に行き、私たちの住む地域の良さを改めて感じました。(略)
- ウ 自然災害の被害が毎年大きくなってきているそうです。社会科や理科の(略)
- エ 少子高齢化が進むと街に活気がなくなるのではないかと感じています。(略)

② には九字で本文中から抜き出して書き、③ には七文字以内でふさわしい内容を考えて答えよ。

3 次は、ある生徒が授業で本文について学び、内容を整理したノートの一部である。これを読んで、あとの問いに答えよ。

形式段落 ①～⑦ 学校の知の意義①

- ・自分の経験だけでは対応できない問題
- 例…商店街の再開発計画
- ・日々の経験を起えた知が必要になる。
- 個人の経験は偶然的かつ特殊的で狭く偏っていることも多い
- 経験の幅を拓けるには時間がかかる。

① から他人の成功、失敗、経験を学ぶことができる。

◎学校で学ぶ知識が役に立つ。

形式段落 ⑩～⑭ 学校の知の意義②

- ・知識が多ければ、それだけ ② ができる。
- 例…同じ夜の星を見る少年と天文学者
- ・未経験のことに対応するために、既存の知識が大切だ。
- 例…目の前の患者を診る医者

◎知識があることで経験の質は向上する。

◎学校で学ぶ知識が役に立つ。

② には九字で本文中から抜き出して書き、③ には七文字以内でふさわしい内容を考えて答えよ。

② には九字で本文中から抜き出して書き、③ には七文字以内でふさわしい内容を考えて答えよ。

設問を確認したうえでまとめる。今年度は特に文章内容の整理の問題が出題された。長文記述問題の正答率が34.8%で難易度は高い。

最終問題は文章全体の内容を把握する問題であったが正答率が70.8%と今までより難易度が低い。

③ [3]の古文に関して、先生と生徒の会話文の空欄補充問題が出題されるため、読み取ったことを自分の言葉で的確に表現する力が必要。現代語訳ができなければ、解けない問題が多数出題。日頃から重要古語の暗記が必要。

R5[3]

3 次は、本文の内容をもとに先生と生徒が話し合っている場面である。[Ⅰ]～[Ⅲ]に適切な言葉を補って会話を完成させよ。ただし、[Ⅰ]・[Ⅱ]には、本文中から最も適切な言葉を五字で抜き出し、[Ⅲ]には、十字以内でふさわしい内容を考えて現代語で答えること。

生徒A「用光の演奏について本文に『[Ⅰ]』という表現があるよ。」(中略)

生徒B「たしかに演奏をする場面で用光は『[Ⅱ]』と思っているね。」(中略)

生徒C「そうか、音楽には[Ⅲ]力があるのかもしれないね。」

注意事項にもチェックをして答えをだす。

④ [4]の小説文に関して、主人公の気持ちや行動の理由を問う問題が出題されるため、登場人物の行動から心情を読み取り、状況をおさえていく練習が必要。

R5[4]

3 佐藤さんは、国語の時間に一線部③における千暁の心情について、発表することになった。(中略)〈ワークシート〉の[X]には、語群から最も適切なものを選び記号で答え、発表原稿の[Y]には、六十五字以内の言葉を考えて答えよ。

語群

- ア 怒りに任せて行動する千暁のことが恐ろしい
- イ 千暁の絵を台無しにしてしまって申し訳ない
- ウ 絵を黒く塗ることを知らせてもらえず悲しい
- エ 千暁が絵を黒く塗ったことに納得がいかない

主人公の年齢は例年10代であり、受験生には読みやすい文章になっている。記述問題は長文記述があり、正答率において今年度は12.3%と毎年難易度が高くなっている。

⑤ [5]の作文に関して、近年資料読み取りの問題が出題されるため、資料を読み取る速さ、自分の意見などをまとめる力が必要。

R5[5] (前略) 興味をもったあなたは、来年度、高校生になる中学三年生に向けて総文祭を紹介したいと考え、生徒会新聞に来場を呼びかける記事を掲載することにしました。(中略) あとの(1)～(4)の条件に従って、記事の下書きを完成させなさい。

条件

- (1) [A]には適当な見出しを書くこと。
- (2) [B]は二段落で構成し、六行以上八行以下で書くこと。
- (3) 選択した資料を示す場合や、資料中の数値を使用する場合は、次の例にならって書くこと。(中略)
- (4) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。

H30より作文が別の大問になっていて、資料読み取りがある。その年より難易度が高くなっている。今年度は44.9%である。

解答

- R5[1] 2 イ  
 [2] 3 Ⅲ (例) 世界の仕組みについての知識を学ぶことで自分の経験の狭さから脱し、その知識を組み合わせることで現状を分析し、新たな経験に活かしていける 4 ウ  
 [3] 3 Ⅰ めでたき音 Ⅱ 今はかぎり Ⅲ (例) 人の心を動かす  
 [4] X イ Y (例) 感情を素直に表す鈴音の姿に触発され、抑圧された日々に対する正直な感情を今なら表現できると確信し、この機会を逃すまいと興奮している  
 [5] 省略 ※解答は県発表の標準解答に拠る